

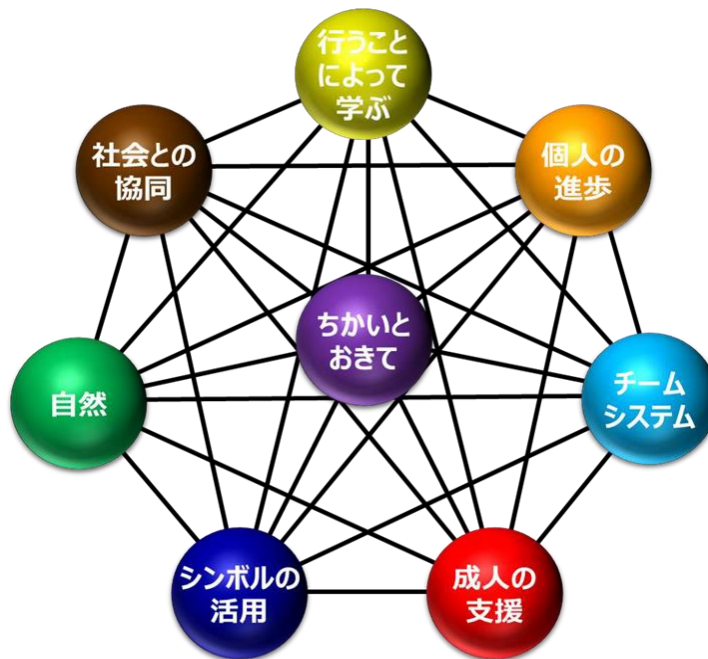
スカウト教育法

スカウト教育法の定義

スカウト教育法とは、スカウト運動における教育方針の根幹をなすもので、一言でいえば、**進歩する自己研鑽システム**、ということになります。このシステムは、後述する複数の重要な役割を持つ要素が密接にかつ相互に絡み合いながら作用します。スカウティングの独自性はこれらの要素が絶妙な組み合わせとバランスで作用することから生まれるのです。

スカウト教育法を構成する 8 つの要素は以下のとおりです。

- ・ 「ちかい」と「おきて」
- ・ 行うことによって学ぶ
- ・ 個人の進歩
- ・ チームシステム
- ・ 成人の支援
- ・ シンボルの活用
- ・ 自然
- ・ 社会との協同



「ちかい」と「おきて」

価値観を共有しようと心から沸き起こる誓いの気持ち、それはスカウトの行動と目指す姿すべての基本です。スカウト教育法の中心にはこの「ちかい」と「おきて」が常に存在します。

「ちかい」を立てるということは自己研鑽のはじめの一步。プログラムにおいて「おきて」がどう反映するか／したかを考え、スカウティング精神にマッチしているか振り返ることができます。

「行うことによって学ぶ」

実際に行う（体験する）、同時に学び成長している自分を振り返ることが大切です。

スカウトは自らプログラムを立案し、成人の支援のもと活動を実施し、その活動がもたらした成果と経験の数々をふりかえる、というプログラムサイクルを実体験します。正にそれが「行うことによって学ぶ」なのです。

「個人の進歩」

向上心に満ちた学びの旅、その道中では多種多様な学びの機会に遭遇し、挑戦する気持ちと意欲を育むことができます。この旅こそが人を成長させ続けるのです。

青少年の中に眠っている「やる気」を呼び覚ますスカウト運動独特の進歩制度で個人の成長を促します。青少年が自分なりの方法とペース、そして自分の年齢と修得すべき内容に応じて自己を成長させていくことを可能にするものが個人の成長です。

「チームシステム」

少人数グループで切磋琢磨し学びあう、そのことをとおして、効果的チームワーク・上手な人づきあい・リーダーシップに磨きをかけ、同時に責任感と所属意識のセンスを築くことを目指します。

チームシステムは隊の中の基本となる組織単位で、青少年が成人の支援のもと構築する小規模集団です。チームの中からリーダーを選び自分たちで運営します。隊活動の決定事項にもかかわっていきるようになります。

「成人の支援」

青少年が「学びの機会」に出会えるよう手助けし応援する大人の存在、そういう大人と手を携えることによって「学びの機会」が実際に意味のあるものになるのです。

スカウト運動とは、成人の支援のある青少年活動であり、成人が運営する青少年活動ではない。青少年の情熱と成人の経験がお互いを高めあう場である、それこそがスカウティングだということです。

対象となる青少年の年齢や能力に応じて青少年と大人との関り方が異なってくるということははっきり認識しておく必要があります。

「シンボルの活用」

テーマやシンボルを用いた学びの展開、それによってスカウトならではの成長を促します。

スカウティング教育では年齢に応じたシンボルを活用することでスカウトの想像力・冒険心・創造性・発想力といった力が築かれるのです。今後進むべき道を明確にしたり、スカウティングに基づく価値観を形成したりするのに役立ちます。また、仲間同士の結束を固め、連帯意識を高めるのもなのです。

「自然」

屋外で学ぶ機会、そのことを通して多種多様な環境に馴染むことができ、そうした環境への理解が深まります。自然界には青少年がその知力・体力・感受性・社会性・精神力を高める計り知れない可能性があります。それゆえ自然はスカウト教育法には理想的な環境なのです。自然をより身近に感じられるようになり、自然界が与えてくれる学びの機会が拡がりを持って増えていきます。それが青少年を成長させるのです。

「社会との協同」

社会すなわちより広い世界に積極的に目を向け関わります。また人と人との理解を深め、互いに感謝の気持ちを持つよう導きます。

奉仕とは、単に他人に対して行うということではなく協同することなのです。すなわち他の人々とともに一緒に行うことなのです。「社会との協同」で大事なことはスカウトがよりよい世界を築くよう導いてあげることです。一人一人のスカウトが行動する市民としての自覚と責任をもって社会でどのような役割を果たすことができるのか自分自身で理解する、それが重要なのです。

以上